

## 題目

「自我機能とユーモアとの関係— IU エゴグラムを用いて—」

## 著者

橋元慶男\* 龍 祐吉\*\* 小川内哲生\*\*\*

\*岐阜聖徳学園大学 \*\*東海学園大学 \*\*\*長崎玉成短期大学

## 掲載誌

交流分析研究 (日本交流分析学会) 2007 年第 32 巻第 1 号 pp. 57~64

## 分類

調査研究

## 問題および目的

近年心身の健康に対するユーモアの肯定的機能が注目されている。本研究は上野 (1992) に従ってユーモアを「遊戯的ユーモア」、「攻撃的ユーモア」、「支援的ユーモア」の 3 類型に分類し、ユーモアの多面的機能を交流分析の自我状態概念と関連づけて分析を行う。ユーモア類型の測定指標に上野 (1992)、宮戸・上野 (1996) を用い、自我状態の機能測定指標に自己志向的自我機能と他者志向的自我機能の両面を測定することができる IUE (自己志向・他者志向エゴグラム) (Nishikawa, 2001) を採用した。自己志向的自我状態と他者志向的自我状態それぞれの下位尺度成分の、ユーモアの 3 類型に対する有意な寄与を検証する。

## 方法

分析対象者：大学生 169 名 (男 74 名、女 95 名、年齢範囲 19 歳 0 月～23 歳 10 月)。

測定尺度：IU エゴグラム (前出)、ユーモア尺度 (前出)。

## 結果および考察

尺度間の重回帰分析：IUE の自己志向自我状態下位尺度 ICP、INP、IA、IFC、IAC および他者志向自我状態 UCP、UNP、UA、UFC、UAC を説明変数とし、攻撃的ユーモア、遊戯的ユーモア、支援的ユーモアを目的変数として重回帰分析を行った。支援的ユーモア ( $R^2=.17, F(10, 168)=4.55, p<.01$ ) については、UNP ( $\beta =.17, p<.05$ ) と UFC ( $\beta =.31, p<.01$ ) からの正のパスが有意であった。攻撃的ユーモア ( $R^2=.08, F(10, 168)=2.58, p<.01$ ) については、UFC ( $\beta =.33, p<.01$ ) からの正のパス、UNP ( $\beta =-.17, p<.05$ ) から負のパス、さらに UCP ( $\beta =.14, p<.10$ ) から正のパスが有意傾向であった。遊戯的ユーモア ( $R^2=.19, F(10, 168)=5.25, p<.01$ ) については ICP ( $\beta =.18, p<.05$ )、IA ( $\beta =.23, p<.01$ )、IFC ( $\beta =.20, p<.01$ ) および UFC ( $\beta =.22, p<.01$ ) からの正のパスが有意であり、UA ( $\beta =-.32, p<.01$ ) からは負のパスが有意であった。

考察：他者への温かな配慮を示す UNP と自由で開放的な自我機能を示す UFC が高くなると、自己や他者を励まし勇気づけるような支援的ユーモアが活発になる。他者批判的な傾向を表す UCP と奔放開放的な UFC が高いと遠慮のない攻撃的傾向が強くなり、他者の弱点を優越的な視点に立って笑うという攻撃的ユーモアが現れやすくなる。

自己理想志向的機能を持つ ICP、自己観察的自意識が反映される IA、主観的内面感情の活動を示す IFC、および自由な子どもの状態を表す UFC の機能が亢進すると、陽気な気分を醸し出し自己や他者を楽しませる遊戯的ユーモアが高まる。一方で冷静な現実適応機能を持つ UA は愉快的ユーモア発現を抑制することが示されている。ICP や IA、IFC との有意なパスは遊戯的ユーモアに主観的気分を含む内面感情活性的自我機能の関与することを示唆している。外界に対して自由・奔放・開放・衝動という抑制のない快樂志向の機能を持つ UFC は、ユーモアの 3 類型すべてと有意に関連することが明らかで、ユーモアの基本的自我機能であることが分かる。ユーモアの 3 類型に関する知見と IUE 下位尺度機能の対応は、理論整合的である。

(要約者：西川和夫)